

平成24年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

1 日 時 平成24年12月12日（水）13時30分～16時00分

2 場 所 さぬき市役所3階301会議室

3 出席者 【委員】井上委員 岩田委員 柿木委員 亀井委員 小山委員
長安委員 夏田委員 南田委員 宮本委員
【事務局】総務部政策課 課長外2名
【傍聴】1名

4 会議次第 1 開会
2 会長あいさつ
3 議題
(1) さぬき市文化祭作品展「男女共同参画コーナー」について【報告】
(2) DV・児童虐待防止啓発キャンペーンについて【報告】
(3) 男女共同参画講演会について【報告】
(4) 男女共同参画セミナーについて
(5) 男女共同参画プランアンケート調査について【報告】および
今後のスケジュールについて
(6) 次回会議スケジュールについて
(7) その他
4 閉会

5 配布資料 資料1 平成24年度さぬき市文化祭作品展「男女共同参画コーナー」を
ふりかえって
資料2 平成24年度DV・児童虐待防止啓発キャンペーンをふりかえって
資料3 平成24年度さぬき市男女共同参画講演会をふりかえって
資料4 平成24年度男女共同参画推進活動事業男女共同参画セミナー
実施要項（案）
資料5 新プラン策定までのスケジュール（案）

6 会議内容

発言者	意見概要
	< 開 会 > (13:30)
政策課長	ただ今から平成24年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会する。 当協議会は原則公開の会議であり、現在は1名の傍聴者に入っている。 傍聴希望者が来た場合には、定員に達するまで随時入っていただくのでよろしくお 願いしたい。 では、開会にあたり会長から御挨拶をいただき、引続き議事に移っていただきたい。
会長	10月17日のNHKクローズアップ現代で、「女性が日本を救う？」というテー マで放送があったので、そのことについてお話ししたい。IMF専務理事のラガルド 氏が出演していたが、ラガルド氏は、「先進国である日本はもっと女性を活躍させる べきだとみんな思っている」、という内容のレポートを出し、このことが今、経済界 にもすごい勢いで波及している。NHKホームページには番組内容の全文が掲載され

	<p>ているので環境の許す方はぜひ御覧いただきたい。今回お持ちいただいているアンケート結果にも、「新しい時代を見出してほしい」という市民の期待が込められていると思う。さぬき市の温かい市民性は残しつつ、新しい風も入れていくのが本協議会の役割である。本日も活発な御意見を頂戴したい。</p>
<p>会長</p>	<p>では、議題に入る。できるだけアンケート結果についての意見交換に時間を割きたいので、議題1 さぬき市文化祭作品展「男女共同参画コーナーについて」から、議題3「男女共同参画講演会について」まで、一括議題としたい。では、事務局、報告をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>●資料1、2、3を使って報告</p>
<p>会長</p>	<p>10月から11月にかけてイベントが色々と開催されたが、前回の会議で中学生ポスターの活用について御意見をいただいたことから、様々な場で展示するなど改善が見られている。また、イベントには市のCATVの取材もあったようだ。参加された委員が多数いるので、意見や感想などがあればお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>講演会について。講師の方が非常に論理的に話されたので大変わかりやすかった。講師の中島先生は、県外で支援者の専門研修会を開催されるそうだが、費用が非常に高かった。市は、もし参加を希望する人がいるのなら、専門的な勉強に一人でも二人でも参加できるよう、費用の援助・助成などを検討してもよいのでは。中島先生の話は、まず結論があり、それについてデータ等に基づく説明があり、論理的で非常にわかりやすい内容であった。こういった考え方や思考方法を勉強するのは非常に大事だと思うので、ぜひとも職員、一般の方ともに参加できる機会を持っていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>研修費用の助成等の検討を、ということであったが、なかなか難しいかもしれない。まずは、関係団体などに広報することから始めてはどうか。広報も大事な意味を持つ。その中で様々な要望が出てきたら、助成等検討していても良いのではないか。 感想の中に「ぜひ子どもたちや若い世代に伝えたい」とあったが、一般の方の中からこういった意見が出てきたのは嬉しいことであり、意味のあることだ。他に意見はないか。 無いようなので、議題4「男女共同参画セミナーについて」、事務局に説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>●資料4を使って説明</p>
<p>会長</p>	<p>委員のみなさんにもぜひ意見をいただきたい。1つ質問だが、今まで男女共同参画セミナーを開催したことはあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>毎年開催している。</p>
<p>会長</p>	<p>託児もついているので、御夫婦・カップルで来ていただくのが理想である。「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を出した方が良いのか出さない方が良いか。</p>
<p>委員</p>	<p>どこかに男女共同参画セミナーと記載されると思うので、なんとなくどんな内容か察しが付くと思うが、今の『毎日をもっとステキにするために、暮らしを見直してみませんか?』というタイトルは、あまりにもオブラートに包みすぎているので、サブタイトルが必要だと思う。内容を見ると、講義、体験談、実践の3段階で、今までの</p>

	<p>男女共同参画にない自分を変える勉強で非常に充実していると思う。セルフマッサージは一般の方にもとっつきやすいので、「一緒に行かない？」と案内しやすい。だが、開催日を日曜日にしても、若い人たちはなかなか参加しないので、積極的アピールが必要だと思う。</p>
会長	<p>時間が9時30分からと早い。子どもを連れて出て来られるのかという部分についても御意見があればいただきたい。</p>
委員	<p>ワーク・ライフ・バランスは、仕事、家事、育児、介護と全般的にわたる話でテーマが広い。例えば、私は介護に一番興味がある。中にはワーク・ライフ・バランスってよく分からないけど、素敵な生活ってどんな風だろうと集まる人もいるかもしれないが、ある程度テーマを絞る方が参加者も集まりやすいのでは。</p> <p>今のままでは講演会等によくありがちだが、次に自分自身で何かのアクションを起こすきっかけまでならないのではないか。もっとテーマを絞り自分の困っていることが解決するような内容であれば充実したセミナーになると思う。これを見る限り、セミナーのタイトルも内容も、どんな方向性を打ち出しているのか読み取りづらい。</p>
委員	<p>『暮らしを見直す』ということに関して。家事を1人で担う女性は非常に忙しい。そこで、例えば、男性が1日の生活を経験した上で、家事の役割分担について考える。このように日々の生活の中でも『暮らしを見直す』ことはできる。また、暮らしの見直し方は、世代によっても違う。</p> <p>他にも、会議で女性がお茶を出すところがあるが、女性自身が男性が手伝うのを嫌がることもある。考え方は変わってきているだろうが、未だにお茶出しは女性がするものと思っている人も多い。『暮らしを見直す』とはこういう慣習も見直さなければいけないと思う。自分自身の家庭生活を見直すことからスタートしなければ、いつまでもたっても言葉だけで終わると思う。</p>
委員	<p>このセミナーは、非常に内容も充実し、私も参加したいと思った。最初に言っていたセミナーのタイトルについてだが、私もサブタイトルは必要に思う。目的がワーク・ライフ・バランスを全体的に網羅しているため非常に長い。句読点などをつけ分けるか、タイトルを現行より短くして省いた言葉をサブタイトルにしてもよいのでは。内容は30名で聞くにはもったいないくらい良いと思う。</p>
会長	<p>タイトルにワーク・ライフ・バランスを入れてもいいと思う。例えば、タイトルが『今日から始められる簡単ワーク・ライフ・バランス』、サブタイトルが『～あなたらしくイキイキと暮らすコツ～』というのはどうか。もし、タイトル案があれば出していただきたい。</p>
委員	<p>中身がはっきりしないと、タイトルを決めるのは難しい。</p>
会長	<p>事務局の最初の思いとして、子育て中の若い世代に来てほしいというものであるように思う。</p>
委員	<p>タイトルの『ステキ』はなぜカタカナにしたのか。</p>
事務局	<p>ポップな感じを出したかった。</p> <p>先程対象が分かりにくいという話をいただいたが、テーマをワーク・ライフ・バランスにしようと思ったきっかけは、市民アンケートの結果で、男女の職業と家庭・地</p>

委員	<p>域生活の両立に不満を持つ人が多かったこと、もう一つは、不満に思っている世代が、男性は30代、女性は20～40代が一番多く、子育て世代に当てはまるため、こういった世代の方に何か役立てるセミナーを開催したいと思った。</p> <p>メインターゲットが子育て世代だが、対象を『興味のある方』としたのは、子育て世代の方だけでなく、例えば子育て世代の親であるおじいちゃんおばあちゃん世代が、若い人たちが育児休業の取得などを考えた際に、『男は働き、女は家を守るものだ』という考えでワーク・ライフ・バランスを阻害するのではなく、若い人たちを応援しようという気持ちを持ってほしかったという思いもあり、対象者を『興味のある方』と幅広くした次第である。</p> <p>私もこのアンケート結果を見て、気になるところがあった。グラフでは、女性に対するあらゆる暴力の根絶の項目で不満と満足度が出ている。その中でも女性の回答の傾向を見ると、20歳以下をはじめとして、すべての世代で不満率が高く、特に40歳代が高い。女性は全般的に暴力に対し不満度が高いことがわかる。各分野においても40歳代の不満が高い。事務局の言うように、40歳代層をターゲットにすることがポイントになる。</p>
会長	<p>皆さんの言うように、対象についてはもう少し絞り込んだ方が良いかもしれない。40代、もしくはアラフォー世代の心を掴むタイトルと内容を持ってこなければならぬ。</p>
委員	<p>タイトルについては、もう少しコンパクトにすれば良いと思う。会長の言う、「簡単ワーク・ライフ・バランス」という言葉は入れたいと思う。サブタイトルの「自分らしく」と「あなたらしく」ではどちらが適しているのかももう少し考えたほうがよい。『始めよう！簡単ワーク・ライフ・バランス』のような短いタイトルが分かりやすく良いだろう。目的は資料には長々と書いてあるが、主催者側の意図なのでこのままで構わないが、チラシなどに書く際にはもっと短くする方がよい。セミナーの内容が、男性育児休業取得経験者の体験談なので、働きながら介護に関わる人にも通ずるものがあるのではないかと。ターゲットは、内容や講師を見れば、おのずと年齢的な対象が絞られるだろう。確かに40歳代の女性の不満度は高いが、そこに縛られすぎるのもどうかと思う。</p>
委員	<p>先程の話を聞いて、ちょうど中学校の保護者世代であると思った。最近学校で学校保健委員会を開催した。会の後に質問コーナーを設けたのだが、やはり40代のお母さん方というのは、思春期の子どもの進路等で大変悩みを抱えていると感じた。中には涙を流しながら打ち明ける方もいた。背景に何があるのか自分なりに考えてみると、本来ならばお父さんとお母さんが子どものことについて話し合えるといいのだが、中学生のお父さん世代は職場でも中堅どころで一番忙しい時期であり、お父さんに相談できないお母さんが全部一人で抱えつらい思いをしているのでは、と感じた。</p> <p>本題に戻るが、今回のセミナーは、説明を聞くと子育て世代にターゲットを絞っていると感じた。ただし、資料の目的を読むと全てを網羅しているため、明確な対象が表れていない。人数集めよりも、実りあるセミナーにするために、対象を明確化した方がよいと思う。</p>
会長	<p>先ほど意見のあった「始めよう！簡単ワーク・ライフ・バランス」のような短めのタイトルで、ワーク・ライフ・バランスという言葉を入れることはみなさん賛成でよろしいか。サブタイトルの中に子育て的な言葉を入れると良いと思う。アンケート結果を踏まえ、対象は子育て世代であり、大変な40代に向かう準備の大切さを伝えら</p>

	<p>ればと思う。あとは、事務局に考えていただくということによろしいか。</p>
委員	<p><了解した></p>
会長	<p>では、続いて議題5「男女共同参画プランアンケート調査について」説明をお願いします。</p>
事務局	<p>●中学生アンケート結果資料を使って説明</p>
委員	<p>中学生のアンケート結果を見て、どのように委員の皆さんが受け止めたのか聞いてみたい。</p>
会長	<p>では、時間を区切らせてもらい、アンケートの種別ごとに意見をうかがうこととする。</p>
委員	<p>結果を見て、中学生は普段の生活の中で日々成長していると感じた。9Pの時系列のグラフを見ると【生徒会の会長は男子、副会長は女子と決まっている】【女子の成績が良かったり、女子がリーダーになると生意気だという人がある】の問いについて、平成20年にいったん下がった「そのようなことはない」の%が上がっている。また、11Pのグラフを見ると、中学生の受け止め方は、地域社会において男子優遇であると感じていることが見受けられる。</p> <p>17PのデートDVの認知状況については、「聞いたことがない」という生徒がほとんどである。次のページのデートDVを「知らなくてもよい」と答えた割合も非常に高い。19Pからの意見は中学生の素直な意見で大変貴重である。学校生活の指導要点を中学生はアンケートで答えてくれているのでは、と感じた。</p> <p>驚いたのは、未だに棟上げで女の人が上に上がれないことである。同じ回答が複数あった。昔は女性は上に上がれないのが当たり前となっていたが、今もこの慣習が残っている。中学生から見ると、このことはおかしく感じるわけで、どう改めていくか考えさせられる。</p>
委員	<p>子どもからすれば素直に疑問に思うことだと思う。しかし、日常生活の男女の平等と、棟上げの際のような日本の伝統文化とはわけて考えていった方が良いのでは。日本古来の文化は男女がわかれているものが多く、お祭りや歌舞伎、相撲などでも日本の文化として存在するものを大事に考えていくことも必要であり、子どもにわけてうまく説明したほうがよいと思う。時代がいくら変わっても、日本古来の変わらない伝統文化があることを各場面で大人がどう説明するかだと思し、大人はもっと勉強しなければならない。</p>
会長	<p>男女共同参画社会基本法の中で、日本の伝統文化や慣習で見直せるものは見直そうということが決まっている。しかし、そのものがすぐに見直せるものなのか、ゆっくり変わっていくものなのか、変わらないものなのか、ということがあるかもしれない。子どもが疑問に思えば変わる可能性があるかもしれないが、なかなか変わらないものを子どもたちにちゃんと説明できる大人にならなければいけないということである。他に意見のある方は。</p>
委員	<p>棟上げに関してだが、私が子供のころ疑問に思ったことが、今でも、特に女の子は感じているのだと思った。ずっと同じ問題があるのだと思った。これについては相当な歴史があるので、これを伝統的な日本文化と捉えているが、見直しができるかどうか</p>

	<p>か検討するターゲットでもあると思う。神寺関係で、例えば神輿を担ぐことなどは、浅草祭では女性の参加も認められるなど、どんどん変わっている。子どもたちに一緒に考えていこうと問題を投げかけながら、大人と子どもと一緒に考える良いチャンスであると思う。ちなみに先日近所で棟上げがあったが、女の子も上に上げていた。すると近所のお年寄りが「あそこ、女の子を上に乗せたからあの家は…」と言っているのを耳にした。どれも正しいのかもしれないが、これからの問題として、私たちが考えていくのに良い教材になると思う。</p>
委員	<p>私の育った地域ではそのようなことはなかったもので、その話は初めて知った。慣習には地域差がある。</p>
会長	<p>昔、女性は宮大工になれなかったが、今はなれるようだ。何十年何百年の歴史を変えるということは、すぐにはできないが、子どもたちはよく見ていると感じた。</p>
委員	<p>報告書の様式について。中学校の集計結果で自由意見の部分に学校名が出ていることに疑問を持つ。資料として提出する場合は、学校名を伏せたほうがよいのでは。</p>
事務局	<p>今回は協議会用資料ということで、男女別・世代別・学校別等クロス集計したものを明記したものをお渡しさせていただいた。一般のHPなどで公表する際は、自由意見については校名等を伏せた形で公表しようと考えている。</p>
委員	<p>今回私たちに出す際にも、例えば【部外秘】記載などの配慮が必要だと思う。</p>
事務局	<p>了解した。</p>
委員	<p>アンケートを中学校に依頼した際、アンケートの集計や処理をどのようにするか中学校側との話し合いや説明はあったのか。</p>
事務局	<p>そこまでは行っていない。</p>
委員	<p>この結果を知っているのは、まだこの協議会だけか。</p>
事務局	<p>そうである。協議会で議題とさせていただいた後に、一般の公表を考えている。</p>
委員	<p>回答の際に、学校は何もチェックをかけずに市に送付している。生徒の素直な意見が結果に表れ、大変参考となった。一般向けに公開するのが不適當な部分もあると思うので、公表には十分な配慮が必要だろう。学校にもこのアンケート集計結果を返してほしいと思う。現在、どこの学校も人権意識が高まっている。生徒は、男女共同参画というよりは人権の問題として捉えて回答していると感じる部分も多く、これは学校の人権教育の一定の成果ではないか。結果について、校長先生には校名の入っているものを渡し、あとは校長先生の配慮に任せてもいいかもしれない。</p>
事務局	<p>学校へのアンケート結果の報告は、1月か2月の校長会の場を考えている。</p>
委員	<p>中学校の校長会で実態を知ってもらい、どうするか話し合ってもらいたい。現在の中学校の男女共同参画の指導の手立てが具体的に出ている。A校がどうでB校がどうという話ではなく、さぬき市の中学校全体でどうするか話し合ってもらいたいと思う。なお、先程他の委員からも意見があったように、資料の取扱いには注意が必要である。</p>

会長	では、続いて教職員のアンケート結果について、事務局に説明をお願いします。
事務局	●教職員アンケート結果資料を使って説明
会長	では意見のある方はお願いします。
委員	<p>6 P・7 Pにあるとおり、ことばづかいや礼儀、服装等には女らしさを求め、運動をやり抜く気力・体力やたくましさには男らしさを求めている実態を受け止めなければならない。</p> <p>16 P・17 Pのデータを見て驚いた。『生徒のデートDVを見聞きしたことがあるか』との問いで、見聞きしたことはないとの回答が95%と圧倒的に多い。男女共同参画の立場から考えて、これだけ社会的にDVやデートDVに関心が寄せられているが、学校では「見聞きしたことない」というのは、ある意味いいことなのかもしれないが、知らないという実態に驚いたという次第である。20 P以降のグラフを見ると、「性別にとらわれない進路指導の実施」をはじめ、「社会における固定的な性別役割分担の問題点の指摘」など教育環境や社会において10年前と比べ意識が高くなっている。中学校においては、男女共同参画に取り組んでいる実態が表れているのではないか。</p>
会長	男子のジェンダーバランス、ジェンダー意識の結果と、たくましくなってほしい＝男らしくという教職員の言葉がけはリンクしていると私も思った。他に意見のある方は。
委員	アンケートの発送数が80件とあるが、さぬき市の中学校教諭は全体で何名か。有効回収数66件のうち男女比率は。
事務局	発送したとき、さぬき市の中学校の教職員の数が121名だった。80件なので、約66%の方にアンケートを送付させていただいたことになる。男性教諭と女性教諭の全体の割合は分かりかねるが、有効回収率の比率は3 Pのとおりである。アンケートの回答を見る限り男女バランスよく配ってくれたことが分かる。
委員	生徒・教職員のアンケートを見て、デートDVの認知度の低さを知り、良いことと思うのは私だけなのだろうか。将来のことを考えデートDVを理解した方が良いのだろうが、寝た子を起こすではないが、あおって刺激を与えるのもどうなのか私自身考えあぐねている。事務局としては今回の結果について、認知度は想定よりも高かったのか低かったのか。
事務局	今回初めての設問であったため、想定よりも高い低いという考えよりも、全体的に認知度が低く、それは生徒だけではなく、教職員についても、ということが判明した。まずは、教員に対しても研修などを通して、進めていかななくてはならない課題だと思った。
委員	中学生はデートDVを扱ったテレビアニメなどを結構見ている。だが、「デートDV」という言葉ではなく、ただの男女のお付き合いの問題であり、それを「デートDV」という認識のないまま経過し、成長しているケースも多いと思う。若い教職員も知らない人が多いのには驚いた。

会長	人権意識が高まっている中、教職員自身がそれは暴力であると認識できるかというのも1つではないか。
委員	現段階では、教職員が、「デートDV」を問題視していないというのではなく、男女間の暴力・いじめはいけないという風にも人権問題の1つとして捉えて対処しているということではないか。先日の講演会には多くの教職員が参加した。「デートDV」としての認識を広めるにはそういった取組から徐々に広めていくのが大切だ。
会長	多くの課題を見つけられる良いアンケートであった。では、次に市民アンケートの説明をお願いします。
事務局	●市民アンケート結果資料を使って説明
会長	意見のある方は。
委員	この結果を見て、70歳代が問題を持っていると感じた。市政にのぞむことはどの問いの回答結果を見て感じたのは、学校教育や福祉に対しての要望が強い中、講演会やセミナーに参加し理解するだけでなく、行政や学校の協力の下、具体的に年齢に応じて話し合い理解する場が必要なのではないかと思った。 やはり市民の意見は厳しい。「アンケートをする必要がない」「アンケートをするのに費用はどのくらいかかったのか」との答えがある。さぬき市には男女共同参画の条例があるが、どれくらい市民に受け止められているのだろう。アンケートを繰り返し読めばさぬき市の実態が分かるはずだ。回答には、男女共同参画室を作ったらどうかとの意見があった。男女共同参画のプランも多々あり、たくさんの時間と費用をかけてアンケート結果が出来上がったのだから、その後の分析と活かし方を男女共同参画協議会メンバーで時間がかかっても考えるべきだと思う。
会長	アンケート結果を十分反映したプランになるよう、協議会の場で様々な御意見をお願いしたい。
委員	未就労理由で圧倒的に「高齢だから」という回答が多いのは、仕事をしたいが高齢だから出来ないのか、高齢だから仕事をする必要がないのか。
委員	3Pにあるとおり、回答者の年齢別構成を見ると半数近くが60歳以上である。この年齢の割合からすると「高齢だから」という回答が多いのは頷ける。回答者比率の問題ではないだろうか。
会長	次のページの男女別のグラフを見てもらうと、男性の比率が高いのが、「高齢者だから」「希望通りの仕事を得られないから」の二つである。高齢者だから希望通りの仕事を得られないため働かない、というのは一つの答えかもしれない。時間が迫っているため、次の事業所と職員アンケート結果に進んでいきたい。事務局に説明をお願いします。
事務局	●事業所、市職員アンケート結果資料を使って説明
会長	企業に女性管理職が多いことに驚いた。働き続けている女性の方はがんばっていると思った。企業が男性の育休に対し何の取組もしていない点は、もしかしたら行政が情報提供する機会を増やすことで改善されるのではないか。年齢構成をみても、年配

	の割合が高い。介護問題に直面した際も、休みなど取りやすくなるのでは。
委員	事業所アンケートは、製造業が非常に多く、女性管理職も多い。この女性管理職というのは、育児や介護の休みを取れている女性管理職なのだろうか。私も企業で管理職をしていたが、女性が管理職に就くと休みを取ると仕事にならない。公務員は休みやすいが、企業では非常に難しいという状況もあると思う。企業に色々な休みが取れる環境は整っていないように思う中、対象事業所の女性の管理職が休みを取れているのならすごいことだと思った。
委員	その通りだと思う。この問題をクリアできなければ女性管理職は非常に難しい。
会長	女性が管理職に就くチャンスをつかめない状況があるのも事実、チャンスをつかめば家庭生活を犠牲にして働かなければならないという問題がよく浮き出ている。
委員	設問の方法について。よく育児休業・介護休業を一緒にするが、それぞれの環境・背景は大きく違うと思う。1つの質問で両方の問題について聞くのではなく、1つずつ質問する方が結果もわかりやすい。
会長	法律が一体となっているので、なかなか難しい部分もあるが、介護の問題になると男性が絡んでくるので、男女共同参画の視点は大事である。次のアンケートにこの意見を生かしてほしい。
委員	このアンケート結果が次のプランに反映される。アンケートには防災と男女共同参画の取組についての設問はなかったが、この項目についてもぜひ次期プランに盛り込みたい。
会長	防災について、国のプランには既に入っている。今から事務局に今後のスケジュールを説明いただくが、アンケートにないから盛り込まないというのではなく、必要性があるのならその項目について検討していけば良い。
委員	次回アンケートの際は、中学生・教職員だけでなく、保護者である一般の方にも同じように聞いてもらえれば。保護者が家でどのようにデートDVについて子どもに教えているのか知りたい。
会長	今回、一般向けのアンケートでは、DVという1項目にまとめて聞いていた。今の御意見は次回の参考として役立てていただきたい。今後のスケジュールについて、事務局に説明をお願いします。
事務局	●資料を使って説明
会長	本日協議したアンケート結果を含め、意見交換の中で新たな発見が多々あった。アンケートにはなかったが、防災など新しい指摘もあった。この発見を次期プランに生かしていきたい。次回会議のスケジュールは。
事務局	次回会議は3月前半を考えている。
会長	では議題7「その他」について、事務局何かあるか。

事務局	<p>先程御指摘いただいたところであるが、中学生のアンケート集計結果の取扱いは十分気をつけていただきたい。もう一点、次回会議までに目を通していただきたいものがあれば事前送付させていただくので、その場合は確認をお願いします。</p>
会長	<p>では、最後に政策課長より御挨拶いただきたい。</p>
政策課長	<p>本年度の会議はあと1回残っているが、本年（平成24年）の協議会は今回が最後である。次期プランについて、次年からも進展があるよう事務局としてもがんばっていきたいので、御意見等よろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>では、以上で第3回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会する。</p> <p style="text-align: center;">< 閉 会 > (16:00)</p>